

目的 スカートのフレアー効果について検討するために、着装時のシルエットをとらえ考察を試みている。本報では、フレアー量の分量がシルエットに及ぼす影響を把握するために、着装時のシルエットとすそ形状に、視覚的な面も関与すると思われたので、官能検査を加え、検討した。

方法 スカートの素材3種(綿、ウール、ポリエステル)、スカート丈60cm、4枚ほぎフレアースカートのパターンで、フレアー量はウエスト寸法(63cm)の3, 4, 5, 6倍4タイプとした。人台(婦人用)に着装させたスカートのシルエット写真、すそ形状の実測により、ノード数、平均波高、波高変動率、すそ角度、すその広がり幅(前面、側面)を測定した。さらに同写真を使用し、フレアーの好ましさについて①一対比較法、②順位法による官能検査を実施した。検査内容は、①同じフレアー量の組み合わせで、どちらが好ましいか。②同じ素材間で、最も好ましい順位を判定する。これら結果から、シルエットの測定と官能検査の両面から検討を試みた。

結果 フレアーの広がりという点では、ヒップラインとすその位置における広がり幅として考えると、フレアー量が多くなると左右脇線の広がりが増加傾向を示すが、前後飛び出しは4倍量までは効果を示し、それ以上量になるとほぼ一定となる。すそ形状における波高変動率は、その最小値が素材によって異なる。すなわち、フレアーの安定する分量は素材によって異なると言える。官能検査では、①の同一分量間の評価は、素材の一致性は見られず、②では、フレアー量の少ないスカート、多いスカートを好む違いが見られた。